

nord C2
COMBO ORGAN

ユーザー・マニュアル
Nord C2
OS Version 1.x

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT
EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△ 記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘ 記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- 電源プラグは、必ず AC100V の電源コンセントに差し込む。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。感電やショート の恐れがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。
- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。
 - 電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき

- ⊘ 本製品を分解したり改造したりしない。
- ⊘ 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。

- 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。
- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



● 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。



● 雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。

● 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。

● 本製品に液体をこぼさない。



● 濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります



- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。



● 本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。



● 付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。

- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしなない。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。故障の原因になります。
- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。

● 不安定な場所に置かない。本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

● 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

● 本製品の隙間に指などを入れない。お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

● 地震時は本製品に近づかない。

● 本製品に前後方向から無理な力を加えない。本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。データを他のメディア等へセーブすることのできる製品では、大切なデータはこまめにセーブすることをお勧めします。

Nord C2 ユーザー・マニュアル目次

1 はじめに

ありがとうございます!	4
開発ストーリー	4
主な特長	4
このマニュアルについて	4

2 オーバービュー

オルガン・パフォーマンス・エリア	5
エフェクト&プログラム・エリア	5
マスター・レベル・ノブ	5
キーボード	5
ノブについて	5
ボタンについて	5
メニュー・セッティング	5

3 接続する

ペダルを接続する	6
スウェル・ペダル・インプット	6
ロータリー・コントロール・インプット	6
サステイン・ペダル・インプット	6
MIDI、USB接続をする	6
USB接続をする	6
MIDIアウト	6
MIDIイン	6
ベース・ペダル	7
オーディオの接続をする	7
モニターイン	7
メイン・ステレオ・アウトプット - L/R	7
ヘッドフォン・アウトプット	7
ロータリー・スピーカー端子	7

4 使い始める

プログラムについて	8
プログラムを選択する	8
プログラムをエディットする	8
メモリー・プロテクト	8
プログラムを保存する	8
ライブ・バッファ	9
エフェクトをかける	9
アンブ・エミュレーションをオンにする	9
ロータリー・エフェクト	9
オルガン・モデルを選ぶ	9
下鍵盤をスプリットする	10
Sound Managerを使用する	10
USBドライバーをインストールする	10
Sound Managerをインストールする - Win	10
Sound Managerをインストールする - Mac	10
Sound ManagerとC2を接続する	10

5 Nord C2リファレンス

マスター・レベル・ノブ	11
シフト・ボタン	11
オルガン・エリア	11
ドローバー	11
ドローバー/パーカッション・プリセット・ボタン	11
プリビュー	11
下鍵盤をスプリットする	11
オルガン・モデルを選択する	11
B3モデル	12
VXモデル	13
FARFモデル	13
パイプ・オルガン	14
シンセ・ベース・モデル	14
プログラム・エリア	15
プログラムとは?	15
プログラムをロードする	15
プログラムを保存する	15
(PROG/MENU) ボタン	15
ディスプレイ	15
ライブ	15
エフェクト・エリア	16
スピーカー・モデル	16
ロータリー・スピーカー・コントロール	16
ディレイ	16
EQ	16
ドライブ	16
リバーブ	16

6 メニュー

システム・メニュー	17
メモリー・プロテクト	17
アウトプット・ルーティング L/R	17
アウトプット・ルーティング 外部ロータリー	17
トランスポーズ	17
ファイン・チューン	17
サステイン・ペダル・ポラリティ	17
サステイン・ペダル・コンフィギュレーション	17
ローター・コントロール・タイプ	17
スウェル・ペダル・タイプ	17
ローター・ペダル・モード	18
オルガン・トリガー・モード	18
ドローバー・スピード	18
MIDIメニュー	18
スウェル・チャンネル	18
グレイト・チャンネル	18
ペダル・チャンネル	18
ローカル・コントロール	18
コントロール・チェンジ・モード	18
プログラム・チェンジ・モード	18
センドCC	18
ダンブ・ワン	18
ダンブ・オール	18
サウンド・メニュー	18
トレブル・ホーン・スピード	18
ベース・ローター・スピード	18
トレブル・ホーン・アクセラレーション	18

ベース・ローター・アクセラレーション	19
パーカッション・ファスト・ディケイ	19
パーカッション・スロー・ディケイ	19
パーカッション・ノーマル・レベル	19
パーカッション・ソフト・レベル	19
トーンホイール・モード	19
パーカッション・ドローバー・9キャンセル	19
キー・クリック・レベル	19
ロータリー・モデル	19
パイプ・ペダル・レベル	19
パイプ・スウェル・レベル	19

7 MIDI機能

MIDI機能について	20
キーボード・ベロシティ	20
プログラム・チェンジ	20
MIDIシステム・エクスクルーシブ	20
Nord C2とシーケンサーを使う	20
接続する	20
ローカル・オン/オフ	20
MIDIチャンネル	20
プログラム・チェンジ	20
コントロール・チェンジ	20
プログラムとCCダンブ	21
プログラム・ダンブを送信する	21
MIDIコントローラー・ダンブを送信する	21
MIDIシステム・エクスクルーシブ・ダンブを受信する	21
MIDIコントローラー・リスト	21
MIDIインプリメンテーション・チャート	22

8 付録

Nord Sound Manager	23
動作環境	23
アップデート	23

9 索引

10 Nord C2仕様

1 はじめに

ありがとうございます!

このたびは、Nord C2 コンボ・オルガンをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機の機能とサウンドをお気に入りいただき、末永くご使用いただければ幸いです。

開発ストーリー

まず、開発ストーリーからお話ししましょう：Nord C2 コンボ・オルガンの開発を始めた時、すでに私たちは10年以上の歳月をかけてデジタル・トーンホイール・オルガン・モデルを開発してきました。この技術を使った最初の製品は、様々なエレクトリック・ピアノなどのピアノ楽器に代表されるエレクトロ・メカニカル・キーボードのサウンドも内蔵した Nord Electro シリーズでした。このシリーズでは様々なサウンドを1台に収めるために、オルガン・サウンドは必ずしも私たちが求めていた完璧なものでは残念ながらありませんでした。

そのような経緯がありましたために、このシリーズが発売されて専門各誌に掲載され始めた頃、私たちはオルガン・サウンドについて非常にヒヤヒヤしていたのですが、各誌の評価は非常に高く、中にはこのシリーズよりもずっと高価なオルガン・クローン機よりも良いサウンドだという評価もありました。とはいえ、Nord Electro シリーズは1段鍵盤でしたし、オルガン以外のサウンドも多く入っていましたから、オルガン・クローン機としては基本的に「番外」扱いでした。

Nord C2 の先代にあたる C1 コンボ・オルガンの開発時に私たちが考えていたのは、純粋なコンボ・オルガンを開発することでした。つまり、オルガンに特化したキーボード・アクションやエフェクトを追究し、コンボ・オルガンの決定版を作り上げる、そのことだけに集中しました。

コンボ・オルガンの開発に際して、いくつかの重要なポイントは開発前にすでに分かっていたのですが、その他の要素については開発を進めながら確認して行く、そのように開発を進めて行きました。また、私たちが細心の注意を払ったのは、最終的なサウンドだけでなく、サウンドを発生させる回路やパーツのひとつひとつでした。膨大な労力を割いてどんな些細なことも漏らさず完全に突き詰めたことで、トーンホイール・サウンドが完璧なだけでなく、レスポンスや使用感までもオリジナルのオルガンを忠実に再現することができました。

Nord C1 開発後の次なるステップとして、私たちはクラシカルなオルガン・サウンドに目を向けました。オルガン開発に並ぶほどの膨大な労力を割いて、非常に美しいサウンドのバロック・オルガンを見つけ出し、細心の注意を払ってそのサウンドをサンプリングしました。

それだけでなく、Nord C2 では B3 モデルも磨きをかけ、数々の賞をいただきました真のリアリズムである C1 サウンドをさらに進化させました。例えば、キー・オン、キー・オフ時に生じるキー・クリックはさらに改良を受け、クリックのレベルやミックスに関するモデリングがトーンホイール別によりリアルになりました。

このように私たちがオルガンにかけた努力と情熱の結晶である Nord C2 をどうぞ存分にお楽しみください。

主な特長

Nord C2 コンボ・オルガンは、3種類のビンテージ・オルガンの高品位デジタル・エミュレーション、バロック・パイプ・オルガンのサンプル、数々のアンプやスピーカー・キャビネット・シミュレーションを含む豊富なエフェクトをライトウェイトなボディに収めた1台です。

2段鍵盤、ベース・ペダル・インプット、ハイレベル・アウトプットを使用すれば、ビンテージ・オルガンとまったく同一、あるいはそれ以上のセットアップになります。

サウンドを発生させるパーツのひとつひとつまでこだわって再現された Nord C2 は、サウンドがビンテージ・オルガンそのものであるだけでなく、レスポンスや使用感も含めて完璧に再現されています。

Nord C2 コンボ・オルガンには、次のような特長があります：

- ビンテージ・トーンホイール・オルガン・モデルを内蔵
- Vox と Farfisa の2タイプのビンテージ・トランジスター・オルガン・モデルを内蔵
- バロック・パイプ・オルガンのサンプルを内蔵
- ゲイン・キャラクターの異なる3種類のアンプ・モデル(2種類のアンプ・モデル、ロータリー・スピーカー・キャビネット・シミュレーション)を内蔵
- 穏やかな歪みからハードなディストーションまでを表現できる、チューブ・スタイルのオーバードライブを内蔵
- タップ・テンボ機能を装備したビンテージ・サウンドのディレイ・エフェクトを搭載
- 3バンドEQ を内蔵
- 5タイプのリバース・エフェクト：ルーム、ステージ、ホール・タイプとそのバリエーションを内蔵
- 61鍵のウォーターフォール型キーボードを2段で装備、オルガン・キーボードに特化したレスポンスが得られるハイ・トリガー・ポイント機能を内蔵
- MIDI 対応のベース・ペダルを接続できるベース・ペダル専用 MIDI 端子を装備
- 1/4 インチ標準ジャック、11ピン・レズリー・スタンダード・コネクター仕様のハイ・レベル・アウトプット端子の装備により、ロータリー・スピーカーヘッドダイレクトに接続できます。11ピン・コネクター使用時には、パネル上のロータリー・スピード・コントロールでロータリー・スピーカーのスピードもコントロール可能です。

このマニュアルについて

このマニュアルは、リファレンス・マニュアルとしてご利用いただけるように編集しています。多くの場合、機能を調べるとそれに関連したヒントも同時にえられるようになっています。

このマニュアルでは LED ディスプレイは単に「ディスプレイ」と表記します。また、「キーボード」は本体の鍵盤だけでなく、MIDI インに入ったノート・メッセージを含む場合もあります。

2 オーバービュー



Nord C2 コンボ・オルガンのフロント・パネルには背景色がグレーと黒の2つのエリアがあります：

オルガン・パフォーマンス・エリア

オルガン・セクションでは4つの異なるタイプのオルガン・モデルを選択し、サウンドの調節を行えます。詳しくは11ページの「オルガン・エリア」をご参照ください。

エフェクト&プログラム・エリア

このセクションではエフェクト、リバーブ、スピーカー・シミュレーションのセッティングを行います。また、このエリアにはサウンドのセッティングをプログラムとして保存したり、プログラムを呼び出したりするセクションもあります。さらに、システム・メニューでさらに詳細なセッティングを行うこともできます。エフェクトに関する詳細は16ページを、プログラムについては15ページをそれぞれご覧ください。

マスター・レベル・ノブ

マスター・レベル・ノブでオーディオ・アウトプットのトータルな音量調節を行います。ヘッドフォン使用時の音量調節もこのノブで行います。また、このノブの向きはプログラムの設定に関わらず、常にアウトプット・レベルを指し示します。

キーボード

Nord C2 コンボ・オルガンのキーボードは、オリジナルのオルガンと同様の素早いレスポンスが得られるファスト・トリガー・レスポンス仕様です。

ノブについて

Nord C2 はプログラムがありますので、ノブの方向は必ずしもプログラムの設定値をそのまま表しているわけではありませんが、ノブを回すとすぐさまそのパラメーターの値がノブの方向を「キャッチ」して一致します。

例外的にマスター・レベル・ノブは、ノブの方向が常に Nord C2 の音量を指し示すようになっています。

ボタンについて

ボタンは、機能によってその動作が異なります：

セレクター・ボタン

セレクター・ボタンを繰り返し押してパネルにプリントされている機能を選択します。この時、選択した機能に対応するLED が点灯します。なお、LED が複数点灯する機能もありますのでご注意ください。

オン / オフ・ボタン

オン / オフ・ボタンのすぐそばにはLED が配置され、状態を一目で確認できます。

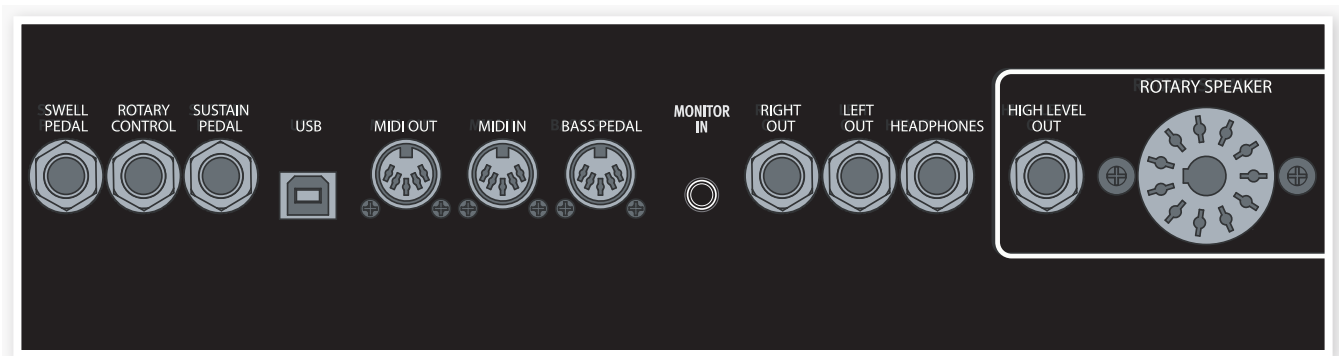
シフト・ボタン

ボタンの中には第二の機能を備えたものもあり、シフト・ボタンを押しながらそのボタンを押してその機能にアクセスできます。第二の機能名はボタンの下にプリントされています。

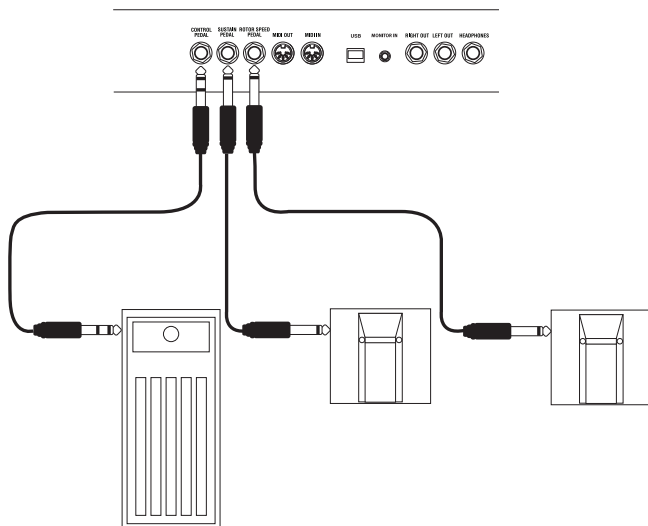
メニュー・セッティング

パネルの右側には、メニュー・セッティングがプリントされています。メニュー・セッティングの設定方法につきましては、17ページをご参照ください。

3 接続する



ペダルを接続する



Nord C2 コンボ・オルガンにはサスティン・ペダル、ロータリー・スピード・コントローラー、スウェル・ペダルの3つのペダル・インプットがあります。

スウェル・ペダル・インプット

選択したオルガン・モデルのスウェル・レベルをコントロールする時に使用します。この端子にエクスプレッション・ペダルを接続する場合は、ステレオ・ケーブルを使用します。また、ペダルのジャックもステレオ・ジャック仕様のペダルを使用します。ペダルの抵抗値の範囲は10または50kΩです。セッティングを簡単にするために、主なペダル・ブランド(Roland, Yamaha, Ernie Ball, Fatar)のペダル特性のプリセットを内蔵しました。これらのブランド製ペダルを使用する場合は、システム・メニューでプリセットを選択するだけで最適なセッティングになります。詳しくは17ページをご参照ください。

ロータリー・コントロール・インプット

ロータリー・スピーカーの回転スピードをペダルで切り替える時に使用します。一般的なサスティン・ペダルを使用できるほか、オプションの半月型スイッチも使用できます。

オプションの半月型スイッチ(ハーフ・ムーン・スイッチ)をご使用の場合は、システム・メニューにあるコントロール・ペダル・タイプで設定をしてください。詳しくは17ページをご覧ください。

サスティン・ペダル・インプット

1/4 インチ・コネクターのスイッチ・タイプのペダルを接続できます。この端子に接続したペダルを操作すると、サスティンがかかります(音が伸びます)。なお、サスティン・ペダルには極性がありますので、お使いのペダルと本機の極性が合わない場合は、システム・メニューで極性を切り替えることができます。詳しくは17ページをお読みください。

ヒント: サスティン・ペダルはパイプ・オルガン・モデルでは使用できません。

音源モジュールなどの外部 MIDI 機器を Nord C2 に接続して使用する場合、C2 ではサスティンがかからず、MIDI アウトにのみサスティン・メッセージを送出させることも可能です。詳しくは17ページのシステム・メニューをご参照ください。

MIDI、USB接続をする

MIDI メッセージの送受信設定は MIDI メニューで行えます。詳しくは17ページをご覧ください。

USB接続をする

Nord C2 の OS アップデートやバックアップをとるなどのプログラムの管理を行うために、Nord C2 とコンピューターを USB で接続することができます。

ヒント: マイクロソフト Windows を使用したコンピューターをご使用の場合、別途 USB ドライバーをインストールする必要があります。USB ドライバーは Clavia のサイト www.nordkeyboards.com からダウンロードできます。

MIDIアウト

上下の鍵盤、シフト、ストア、マスター・レベル以外のすべてのノブとボタン、ベース・ペダル・インプットに接続したベース・ペダルからの MIDI メッセージは MIDI アウトから送出されます。

MIDIイン

外部キーボードやコンピューターなどの外部機器からの MIDI メッセージを受信したい場合は、外部機器の MIDI アウトと Nord C2 の MIDI インを MIDI ケーブルで接続します。

ベース・ペダル

Nord C2 のベース・レジスターを演奏する場合は、外部 MIDI コントローラー（一般的には MIDI ベース・ペダルになります）を C2 のリアパネルにありますベース・ペダル・コネクタに接続します。ベース・レジスターは、MIDI チャンネルに関係なく MIDI ノート・メッセージを受信します。

オーディオの接続をする

モニター・イン

CD や MP3 プレイヤーなどからのオーディオ信号をモニター・インに接続して Nord C2 のヘッドフォン端子に出力させることができます。この機能を使って CD などの楽曲に合わせて演奏することができます。

ヒント: モニター・インに入ったオーディオ信号は、Nord C2 のエフェクトやメインの LR アウトプットを通らず、直接ヘッドフォン・アウトに流れます。

メイン・ステレオ・アウトプット - L/R

Nord C2 のメインのステレオ・アウトプットです。標準フォーン・ジャック仕様、アンバランス型のライン・レベルで、レコーディング機器やアンプと接続できます。

<オーディオ接続の鉄則>

- アンプの電源を入れる前にすべての接続を済ませます。
- アンプの電源は、すべての機器の最後に入れます。
- 電源を切る時は、アンプの電源を最初に切ります。

ヘッドフォン・アウトプット

ステレオ・ヘッドフォンを接続できます。端子は標準ステレオ仕様です。

重要: 大音量での使用は難聴など、聴覚に重大な問題を引き起こす可能性がありますので、音量には十分ご注意ください。

ロータリー・スピーカー端子

ロータリー・スピーカー・ハイ・レベル・アウトプットは標準フォーン・ジャックと 11 ピンの Leslie™ スタンダード・コネクタを使用できます。これらの端子は、定格 14 ボルトの高出力、アンバランス型で、アンプ内蔵のロータリー・スピーカーにのみ接続可能です。その他の機器への接続は、機器に重大なダメージを与える場合がありますのでおやめください。

通常、この端子を使用すると、トーンホイール・オルガン・モデルのオーディオ信号はこの端子に流れ、その他のオルガン・サウンドはメイン・ステレオ・アウトプットへ流れますが、それ以外の設定も可能です。詳しくは 17 ページをご参照ください。

4 使い始める

本章では、Nord C2 の各機能をご紹介しながら C2 に親しんでいただけます。C2 のユーザー・インターフェイスは、ライブでも可能な限り直感的に操作できるように設計いたしました。本章をお読みになり、Nord C2 の諸機能をご理解の上、本機を使いこなしていただければ幸いです。

プログラムについて

音色セッティングはプログラムとして Nord C2 の本体にメモリーされます。プログラムは126個あり、すべてがエディットでき新たにメモリーすることが可能です。また、工場出荷時のプログラム(ファクトリー・プログラム)は Clavia のウェブサイト www.nordkeyboards.com から入手することもできます。

プログラムを選択する

プログラムの選択は〔UP/DOWN〕ボタンを繰り返し押しして行います。プログラムを選択するとプログラム・データが本体にロードされます。



プログラムをエディットする

プログラムのエディットは、ノブを回したり、ドローバー・ボタンを使って音色を変化させるだけの簡単操作で行えます。ノブが向いている方向は必ずしもプログラムの設定値と一致しているわけではありませんが、ノブを回すとすぐにそのパラメーターの値をキャッチしてノブの方向と一致します。

プログラムをエディットすると、ディスプレイの右下隅にドット「。」が表示されます。これは、プログラムが変更され、まだ保存されていませんという意味を表示するものです。保存をせずにこの状態のまま、別のプログラムを選択するとエディット中だったデータは消去され、元のプログラムを選び直してもそのオリジナル・プログラムが呼び出されるだけとなりますのでご注意ください。

メモリー・プロテクト

Nord C2 は工場出荷時の状態ではメモリー・プロテクト機能がオンになっています。これは誤ってプログラムの保存操作をした時にオリジナル・プログラムを保護するための機能です。プログラムをエディットして保存する時は、保存操作を行う前に次の手順でメモリー・プロテクトをオフにします：

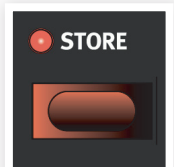
- ①〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔SYSTEM〕ボタンを押し、〔UP/DOWN〕ボタンでメモリー・プロテクトのページを開きます。このページはシステム・メニューの先頭にあります。
- ②〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔UP/DOWN〕ボタンを押し、メモリー・プロテクトをオフに設定します。
- ③〔PROG/SYSTEM〕ボタンを押し、システム・メニューから抜けます。

ヒント：メモリー・プロテクトの設定は、Nord C2 の電源を消しても保存されません。

プログラムを保存する

プログラムをエディットして、気に入った音色ができましたら、プログラムの保存を試みましょう。手順は次のとおりです：

- ①〔STORE〕ボタンを押します。
この時、プログラム・ナンバーのLEDが点滅します。
- ②プログラムを保存したいナンバーを選択します。
元のプログラム・ナンバーに上書き保存をしたくない場合は、保存したいプログラム・ナンバーを〔UP/DOWN〕ボタンを使って選択します。
- ③〔STORE〕ボタンをもう一度押します。
これでプログラムの保存は完了です。



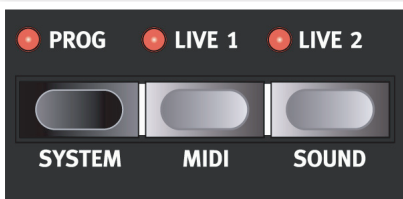
ヒント：保存を途中で中止したい場合は、2度目に〔STORE〕ボタンを押す前に〔SHIFT〕ボタンを押します。

ヒント：メモリー・プロテクトがオフの状態の場合、〔STORE〕ボタンを素早く2度押し、プログラムの上書き保存をすることができます。

ライブ・バッファ

Nord C2 コンボ・オルガンには通常のプログラムとは別に、特別なメモリーがあります。それが「ライブ・バッファ」です。〔LIVE〕ボタンをオンにすると、すべての音色セッティングの変更はすぐにその場で保存されます。電源を切ったり、別のプログラムを選択したりしても、ライブ・バッファに保存されている内容はキープされますので、改めて電源を入れ、ライブ・バッファを選択すればいつでもその状態を呼び出すことができます。なお、ライブ・バッファ使用時には、通常のプログラムをエディットした時に表示されるドット「。」は表示されません。

ライブ・バッファ使用時にエディットした音色を通常のプログラムに保存したい場合は、前ページにありますがプログラムの保存手順で保存できます。逆に、通常のプログラムをライブ・バッファに保存することも可能です。この場合、その時点でライブ・バッファにあった内容とライブ・バッファに保存しようとしているプログラムが入り替わることになります。



エフェクトをかける

① プログラムを選んで鍵盤を弾きながら…

② …〔DELAY〕ボタンを押し (LED が点灯します)、〔FEEDBACK〕ボタンを何度か押しを試みます。



フィードバック・ボタンを押すと、ディレイのフィードバック（繰り返し）量が変わると同時に点灯する LED が変わります。2つの LED の両方が点灯している時がフィードバックの最大量です。

③ 演奏しながら〔AMOUNT〕ノブ、〔TEMPO〕ノブを回してみます。ア Amount・ノブでディレイのエフェクト量が変わります。

④ 〔REVERB〕ボタンをオンにしてみます。

⑤ 〔SHIFT〕ボタンを押しながらリバーブ・セクター・ボタンを繰り返し押し、リバーブ・タイプの変わるサイクルが逆になります（〔SHIFT〕ボタンを併用しなくてもリバーブ・タイプを変更することは可能です）。



ヒント:〔SHIFT〕ボタンを押しながらオルガン・モデル以外のセクター・ボタンを押すと、通常とは逆のサイクルでタイプを選択することができます。

⑥ エフェクトをオフにします。

エフェクトをオフにしてもエフェクトのタイプ・セクター・ボタンを押してエフェクトのタイプを変更しておくことができます。

ヒント:エフェクトがオフの時にエフェクトのタイプなどのエディットをすることで、サウンドに影響を与えることなくエフェクト・サウンドを変更することができます。

アンプ・エミュレーションをオンにする

① 〔SPEAKER MODEL〕ボタンを押してアンプ・エミュレーションをオンにします。

この時、〔SPEAKER MODEL〕LED が点灯します。

② セクター・ボタンを繰り返し押し、アンプのタイプを選択します。

③ アンプ・エミュレーション・セクションの右上にある〔DRIVE〕ノブは、アンプとロータリー・シミュレーターのドライブ量を調節します。ドライブがオンの状態でこのノブを回すとオーバードライブが得られます。

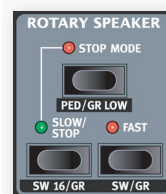
ロータリー・エフェクト

ロータリー・エフェクトはオルガン・サウンドに劇的な変化を与えます。Nord C2 にはファスト、スロー、そしてストップの3種類のロータリー・スピーカー・シミュレーションが得られます。ストップはエフェクトのオフではなく、ロータリー・スピーカーが静止した状態を再現したものです。

① 〔SPEAKER MODEL〕をオンにして、エフェクト・セクターでロータリーの種類を選びます。

ドライブ・ノブはロータリー・アンプのオーバードライブ量を調節します。

② フロント・パネルの左側にある〔SLOW/STOP〕、〔FAST〕ボタンでロータリー・スピーカーの回転速度が切り替わります。



スピードが徐々に切り替わっていく時の素晴らしいサウンドもお楽しみください。

③ 〔STOP MODE〕ボタンを押すと1スピード・モードがオンになります。

この時、〔STOP MODE〕LED が点灯します。

④ 1スピード・モードがオンになっている状態で、〔SLOW/STOP〕ボタンを押すと、ロータリー・スピーカーのスピードはファストとストップの2段階になります。

1スピード・モードは、ストップとファストのみだった初期のロータリー・スピーカーの動作を再現したものです。

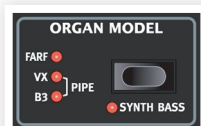
ヒント:フット・スイッチを本体リアパネルにあるロータリー・ペダル・インプットに接続すると、ロータリー・スピードをフット・スイッチでコントロールできます。

注意:パイプ・オルガンを使用している時は、ロータリー・スピーカーを使用できません。

オルガン・モデルを選ぶ

① オルガン・モデル・セクターを繰り返し押ししてオルガン・モデルを選択します。オルガン・モデルには B3、Vox、Farfisa のエミュレーションと、パイプ・オルガンのサンプルがあります。

各オルガン・モデルの音色は、デジタル・ドローバーを使用してエディットできます。Farfisa とパイプ・オルガンではドローバーはスイッチ・モードで動作します。



② ドローバーで音色を作り、〔Drawbar/Preset〕ボタンの1つを押します。

③ これで新しいプリセット・セッティングができました。プリセットを登録しておくと、演奏中に音色を素早く切り替えたい時に便利です。

- ④ [PREVIEW] を押しながら [DRAWBAR/PRESET] ボタンを押すと、次に切り替えて使用するオルガン・サウンドを作ることができ、[DRAWBAR/PRESET] ボタンをもう一度押すとそのサウンドに切り替えることができます。

下鍵盤をスプリットする

B3 モデルでは、下鍵盤をスプリット(分割)してベース・サウンドを演奏することができます：

- ① [GREAT MAN] ボタンを押して下鍵盤をスプリットにします。

この時、下鍵盤の下から2オクターブ分を使ってトーンホイール・ベース・サウンドを演奏できます。



- ② ペダル・ドローバーを使用してベース・サウンドを作ります。
- ③ [SHIFT] ボタンを押しながら [ORGAN MODEL/SYNTH BASS] ボタンを押すと、トーンホイール・ベースの代わりにシンセ・ベース・サウンドを演奏できます。

オルガン・モデルが VX (Vox) や FARF (Farfisa) の時は自動的にシンセ・ベースが選択されます。パイプ・オルガンでは専用のベース・レジスターが自動的に選択されます。

- ④ シンセ・ベース・サウンドを選択している時は、[SHIFT] ボタンを押しながらペダル・ドローバーを使用してブラックやリリースなどのエディットを行えます。

Sound Managerを使用する

USBドライバーをインストールする

ウィンドウズの PC をお使いの場合は、Sound Manager を使用する前に Clavia USB Driver をインストールしておく必要があります。インストール手順は次のとおりです：

ヒント: Mac をご使用の場合は、Clavia USB Driver をインストールする必要はありません。

- ① Clavia USB Driver を www.nordkeyboards.com の Nord C2 ダウンロード・エリアからダウンロードします。
- ダウンロード終了後、ファイルを解凍します。
- ② Nord C2 とコンピューターを USB ケーブルで接続し、電源を入れます。「新しいハードウェアを見つけました」というウィザードの表示が警告音と共にコンピューターに表示されます。
- ③ ウィザードで USB ドライバーをサーチさせてインストールするか、またはダウンロードした USB ドライバーが入っているフォルダを直接指定してドライバーをインストールします。

Sound Managerをインストールする - Win

- ① Nord Sound Manager (Win 版) を Clavia のウェブサイト www.nordkeyboards.com からダウンロードします。
- ② 「Install Nord Sound Manager v5.xx.exe」を起動させ、インストールを開始します。
- ③ Nord Sound Manager がハードディスクのプログラム・ファイル・フォルダにインストールされます。

インストール時に別のフォルダを指定することも可能です。

- ④ 表示されるウィンドウの「Next」ボタンをクリックしてインストール作業を進めます。

インストールの中止したい場合は「Cancel」ボタンをクリックします。また、インストールが完了したら「Close」ボタンをクリックしてウィンドウのデスクトップに戻ります。

Sound Managerをインストールする - Mac

- ① Nord Sound Manager (Mac OS X 版) を Clavia のウェブサイト www.nordkeyboards.com からダウンロードします。
- ② イメージ・ファイル(.dmg ファイル)を開き、「Nord Sound Manager v5.xx.app」をアプリケーション・フォルダにドラッグします。

ヒント: Nord Sound Manager の新バージョンは、Clavia のウェブサイト www.nordkeyboards.com から無償でダウンロードできます。

Sound ManagerとC2を接続する

- ① Nord C2 コンボ・オルガンの電源が入っていることを確認し、C2 の USB 端子とコンピューターの USB ポートを USB ケーブルで接続します。
- ② Nord Sound Manager をプログラム・ファイル・フォルダまたはスタート・メニュー (Win) から、アプリケーション・フォルダ (Mac) から起動します。
- Nord C2 との接続は、Sound Manager の起動中に自動的に行われます。
- ③ Nord C2 との接続が完了すると、Sound Manager の画面右下に接続状況が表示されます。また、この時、Program タブが自動的に表示されます。
- ④ Sound Manager の Program タブには Nord C2 にメモリーされているプログラムがリスト表示されます。Sound Manager の詳しい PDF マニュアル (英文) は、www.nordkeyboards.com からダウンロードできます。

基本的な操作のご紹介をこれで終わります。次章からはリファレンス編がスタートします。

5 Nord C2リファレンス

マスター・レベル・ノブ

マスター・レベル・ノブで Nord C2 のメイン・アウトプット(L/R)とヘッドフォン・アウトの音量を調節できます。このノブでのセッティングは、プログラムにメモリーされません。

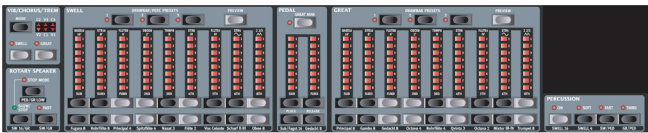


シフト・ボタン



Nord C2 のボタンの多くには第二の機能があり、その機能名はボタンやノブの下にプリントされています。これらの機能を使用する時にシフト・ボタンを使います。

オルガン・エリア



Nord C2 コンボ・オルガンには、デジタル・モデリングのトーンホイール/B3オルガン、2種類のトランジスター・オルガン・モデル(VX、FARF)、そしてサンプリングによるバロック・パイプ・オルガンの、合計4種類のオルガン・モデルを内蔵しています。

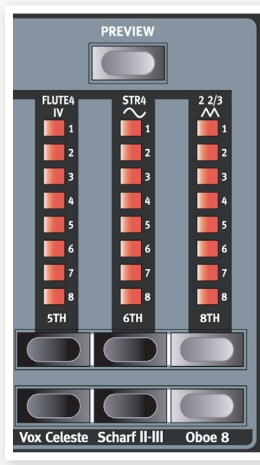
オルガン・エリアには3つのメイン・セクションがあります：

- ドローバー・セクション：オルガンの基本的なサウンドを作ります。このセクションは上下鍵盤、ベース・ペダル・レジスターの3セクションがあります。
- パーカッション・エリア：トーンホイール・オルガンの特徴的サウンドであるパーカッション・エフェクトのコントロールを行います(B3オルガン・モデル選択時のみ使用可能です)。
- ビブラート/コーラス・エリア：各オルガン・モデルによって異なるコーラス/ビブラートのコントロールを行います。

ドローバー

Nord C2 のドローバーは、通常の機械式に代わってボタンとLEDチェーンによるグラフィックで構成されています。この方式には、プログラムやプリセットを切り替えた時に、そのドローバーの状態を正しく表示できるという大きなメリットがあります。また、ドローバーのセッティングもボタンで簡単にエディット可能です。

Nord C2 のドローバーの操作方法は、従来の機械式と同様です。つまり、B3、VXモデルではドローバーを「引き出す」と音が出て、「押し込む」と音が小さくなる、オリジナルの楽器と同じ動作をボタンで行えます。



また、ドローバー・ボタンは長押しすると自動的にそのドローバーの音量が増加/減少する機能もあります。さらに、ドローバー・ボタンを長押ししている間に、その反対方向のドローバー・ボタン(増加中であれば減少側のボタン)を押すと、自動的に増加/減少する方向を逆転させることができます。なお、FARFとパイプ・モデルではオリジナルの楽器と同様、オン/オフ・スイッチ式の動作になります。

ドローバー/パーカッション・プリセット・ボタン



プリセット・ボタンを使用して、1プログラムの中で異なるドローバーのセッティングを瞬時に呼び出すことができます。ドローバーのセッティングをエディットした場合はプログラムとして保存しないと、別のプログラムを選んだ時点でエディットした内容は消えてしまいますのでご注意ください。保存方法などの詳細は、15ページをご参照ください。

ヒント：パイプ・オルガン使用時は、上下鍵盤別々に合計6個のプリセットをメモリーできます。

ヒント：B3、VX、FARFモデル使用時は、上下鍵盤で別々のセッティングをプリセットに記憶できます。また、上鍵盤にはパーカッションの設定も記憶できます。

プレビュー

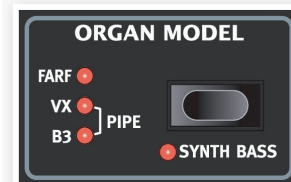
〔PREVIEW〕ボタンを長押しし、プリセット・ボタンを押すと、そのプリセット・ボタンが点滅しますがそのプリセット音色に変わらず、そのプリセットのセッティングをバックグラウンドで変更させることができます。これは演奏中の音色を変えることなく、次に使用したい音色を作りたい時に便利な機能です。音作りが完了し、点滅しているプリセット・ボタンを押すとそのセッティングに音色が変わります。

下鍵盤をスプリットする

〔GREAT MAN〕ボタンを押すと、下鍵盤をC3キーを境に2つの領域にスプリット(分割)させることができます。スプリットした下側の2オクターブでベース・ドローバーの音色を演奏することができます。



オルガン・モデルを選択する



オルガン・モデルの選択は〔ORGAN MODEL〕ボタンを押して行います。同時に複数のモデルを選択することはできず、一度に1種類のモデルのみを選択できます。

B3 モデル使用時はベース・ドローバーで B3 ベース・レジスターの音色を作ることができます。

B3 モデル使用時に〔SHIFT〕 ボタンを押しながら〔ORGAN MODEL〕 ボタンを押すとシンセ・ベース・モデルを使用できます。

VX、FARF モデル使用時は、ベース・ドローバーでシンセ・ベース・モデルのコントロールを行えます。

パイプ・オルガン・モデル使用時は、ベース・ドローバーでパイプ・オルガン・ベース・ストップのコントロールを行えます。

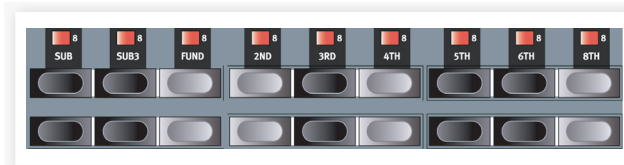
B3モデル

このモデルは、クラシックな機械式トーンホイール・オルガンのデジタル・シミュレーションを土台にしたモデルです。Clavia 独自の先進技術により、オリジナル・サウンドの以下のようなあらゆるニュアンスを再現します：

- オリジナルのコーラスとビブラート・スキャナーを高精度デジタル・モデルにより再現。
- 各ドローバーで不規則に発生する接点跳動をモデリング。
- オルガン・サウンドの中核をなす内蔵プリアンプの特性を忠実に再現。
- オリジナル・サウンドの特徴の1つであるトーンホイールのエネルギー・ロスによるコンプレス・サウンドを忠実にシミュレーション。
- トーンホイールのチューニングもオリジナルを忠実に再現。
- 非常に早いキーボード・レスポンス。
- 完全ポリフォニック(全鍵発振)。

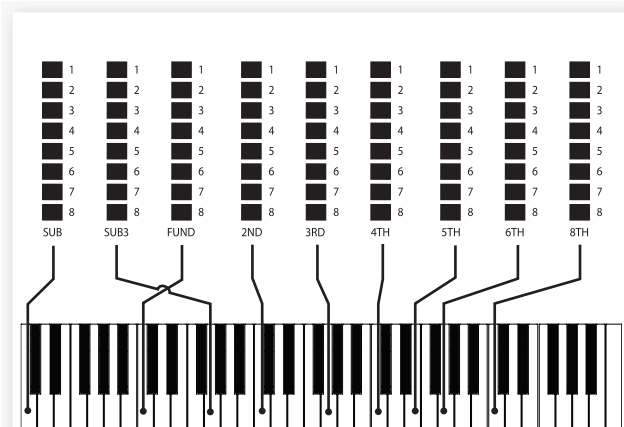
ドローバー

トーンホイール・オルガンの各ドローバーのピッチ (倍音) は、ドローバーの下にプリントされています。



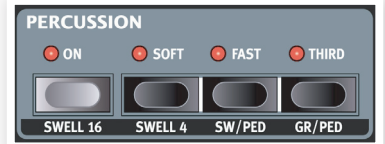
ドローバーの基本的な操作につきましては、11ページの「ドローバー」をご参照ください。各ドローバーには、演奏するピッチに応じた倍音が用意され、それらのミックスにより音色を作ることができます。

下の図は、C3のキーを弾いた時の9本のドローバーのピッチの間隔を示したものです。この中で、SUB3ドローバーは実際には演奏したキーの5度上のピッチなのですが、多くの場合聴感上は演奏したキーよりも低いピッチに聞こえるため「SUB」の名前がついています。



パーカッション

パーカッション・エフェクトは1個のエンベロープ・ジェネレーターを使用してセカンド(2倍音)とサード(3倍音)の音量をコントロールして鍵盤を弾いた時のアタックを強調することができる機能です。



鍵盤を弾いた瞬間にエンベロープがわずかの瞬間だけ「開いて」パーカッションの音が出ます。パーカッションはシングル・トリガーで、ノン・レガート奏法をしてはじめて音が出るものです。つまり、最初の鍵盤から指が完全に離れる前に別の鍵盤を弾いた時には、後から弾いた鍵盤にはパーカッションがかかりません。逆に、すべての音にパーカッションをかけたい場合は、別の鍵盤を弾く前に必ず前の鍵盤から指が離れているように弾く(ノン・レガート奏法)必要があります。

パーカッション・エフェクトはスウェル・マニュアル(上鍵盤)にのみかかり、オン/オフボタンでコントロールできます。〔SOFT〕ボタンは、パーカッション・エフェクトの音量をノーマルとソフトの2段階で切り替える時に使用します。〔FAST〕ボタンはパーカッション・エフェクトのディケイをスローとファストの2段階で切り替えられます。

〔THIRD〕ボタンを使用してパーカッション・エフェクトに使用する倍音をセカンドとサードの2種類から切り替えることが可能です。また、パーカッション・ディケイ・タイムでスローとファスト別々にディケイ・タイムの設定を行うことができます。この設定はサウンド・メニューで行います。詳しくは、17ページをご覧ください。

注意: オリジナルのトーンホイール・オルガンでは、パーカッション・エフェクトを使用すると9番目のドローバーが使用できなくなる設計でした。Nord C2ではオリジナルに忠実なこの仕様で演奏できるほか、パーカッション・エフェクトと9番目のドローバーを同時に使用することも可能です。設定方法などの詳細は17ページの「サウンド・メニュー」をお読みください。

ビブラート

オリジナルのトーンホイール・オルガンに内蔵のビブラートとコーラス・スキャナーはタップ式ディレイ・ラインと回転式スキャナーで構成されていました。ビブラート・エフェクトにはオーディオ信号にフェイズ・シフトがかかるようになっていました。



コーラス・エフェクトでは、フェイズ・シフトされた信号と原音をミックスする仕掛けでした。

コーラス/ビブラートではそれぞれ3種類のコーラス(C1~C3)、ビブラート(V1~V3)をモード・ボタンを使って選択できます。オン/オフは上下鍵盤別々に行えます。なお、下鍵盤でコーラス/ビブラートをオンにするとトーンホイール・ベース・レジスターも同時にオンになりますのでご注意ください。

キー・クリック・コントロール

キー・クリックは、不規則に発生する接点跳動によるもので、トーンホイール・オルガン・サウンドの重要な特徴の1つです。これは、トーンホイール・オルガンの設計当初には予想されていなかった、いわば設計ミスだったのですが、そのサウンドが逆にミュージシャンに受けたものだったのです。Nord C2ではキー・クリックの音量をサウンド・メニューで調節できます。

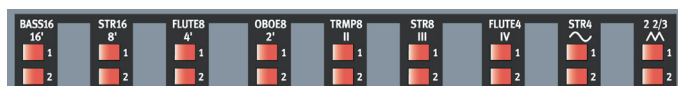
ヒント: サウンド・メニューにはトーンホイールのキャラクターを4タイプから選べるトーンホイール・モードがありますのでぜひお試しください。このパラメーターではクリーンなB3モデルから使い古したサウンドまで、それぞれ特徴的なサウンドを選べます。

VXモデル

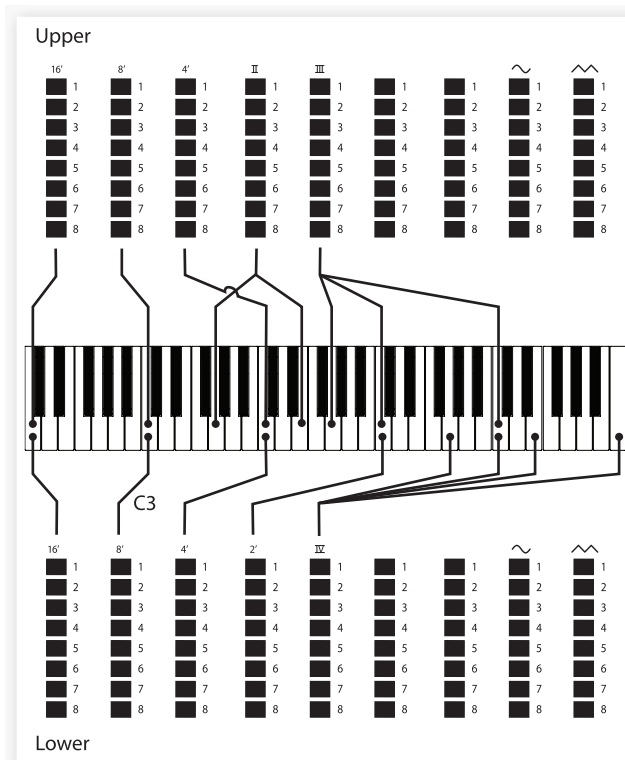
VX モデルのオリジナルである Vox™ オルガンは、1960年代初期のトランジスター・オルガンの中で最も有名なオルガンと言えるでしょう。トランジスター技術の発達に伴い、オルガン楽器のサイズをどんどんコンパクトにすることが可能になりました。トーンホイール・オルガンの力強いサウンドに比べて、トランジスター・オルガンのサウンドは線が細く、耳につくようなサウンドなのですが、その特徴的なサウンドとクールなデザイン(特にクローム・フィニッシュのZ型スタンドは最高にクールでした)で当時の最も人気のある機種でした。そしてそのサウンドが時を超えて Nord C2 コンボ・オルガンで忠実に再現されています。

ドローバー

VX モデルのドローバー名は、ドローバー LED の上に2行あるうちの上の行にプリントされています。ドローバーの基本的な使用方法につきましては、11ページの「ドローバー」をご参照ください。



VX ドローバーでは左から5本のドローバーで各倍音のレベルを調節します。下の図は C3 のキーを弾いた時の5本のドローバーのピッチ間隔を示したものです。このピッチ間隔はオリジナル同様、上下鍵盤で異なるものになっています。



右側から2本のドローバーはすべての倍音の音量を一度に調節するもので、1つはフィルターがかかった三角波のような柔らかなサウンド、もう1つはフィルターを通していないブライتنا矩形波のようなサウンドが得られます。

重要: この2つのドローバーが完全に押し込まれている状態では、音が全く出ませんのでご注意ください。

ビブラート

VX モデルでも複数のタイプのビブラートとコーラスを使用できます。操作はビブラート・セクションにある〔SWELL/GREAT〕ボタンで行います。ビブラートのV3は、オリジナルの Vox オルガンのビブラートを忠実にモデリングしたものです。

注意: VX モデルでは、ビブラートは上下鍵盤で共通にかかります。

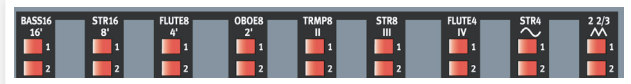
FARFモデル

FARF モデルのベースとなった Farfisa オルガンは、その特徴的なブザーのようなサウンドで、これまでに作られたあらゆるキーボード楽器の中でもすぐにそれと分かるサウンドでした。

Farfisa オルガンではサウンドに実際の楽器名を使って表現していましたが、それらは決して特定の楽器音を忠実に再現したものではなく、例えばフルートならソフトな音、オーボエは線の細く、よく通る音、トランペットならブラスっぽい音といったように、その雰囲気に近い楽器音を充てていました。

レジスター・セレクター

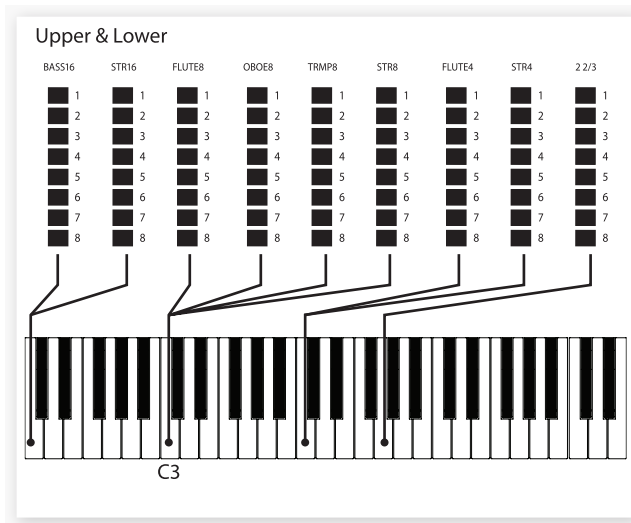
FARF モデルのドローバー名は、ドローバー LED の上にある2行の下の行にプリントされています。



B3、VX モデルとは異なり、FARF モデルではドローバーはオン/オフ・スイッチ、または「レジスター・セレクター」として機能します。これはオリジナルの Farfisa オルガン自体がシーソー・タイプのスイッチで音色を切り替えて(実際には異なるフィルター設定を切り替えて)いたものを再現したものです。そのため、ドローバー・ボタンは各音色のオン/オフ切り替えとして動作します。ドローバー LED の5~8がまとめて点灯している状態でその音色がオンになっている状態を示し、1~4がまとめて点灯している場合はその音色がオフになっている状態を示します。下の表は、各レジスター・セレクターとオリジナルの音色名をまとめたものです。

レジスター・セレクター	音色名	パネルでの表記
1	Bass 16	BASS16
2	Strings 16	STR16
3	Flute 8	FLUTE8
4	Oboe 8	OBOE8
5	Trumpet 8	TRMP8
6	Strings 8	STR8
7	Flute 4	FLUTE4
8	Strings 4	STR4
9	弾いたピッチの音、その1オクターブ上、5度上の音が同時に重なったブライتنا音色	2 2/3

下の図は、C3 のキーを弾いた時の各音色でのピッチの間隔を示したものです。中には同じピッチ間隔のものもありますが、サウンド・キャラクターは異なります。



ビブラート

オリジナルの Farfisa オルガンには「ライト」と「ヘビー」の2種類のビブラートがあり、それぞれ異なるスピードのビブラートでした。Nord C2 の FARF モデルでは複数のタイプのビブラートとコーラスを内蔵しました。これらはビブラート・セクションの〔ON〕ボタンで使用できます。

注意: V1、V2、V3 はオリジナルの Farfisa オルガンのビブラートをベースにモデリングしたものです。

注意: FARF モデルのビブラートは上下鍵盤で共通にかかります。

パイプ・オルガン

パイプ・オルガン・モデルはバロック・パイプ・オルガンのサンプルを集めたものです。このモデルの使用時は Nord C2 のドローバーはストップとして働き、各ストップ名はドローバー・ボタンの下にプリントされています。ストップは FARF モデルと同様、オン/オフ動作です。



上下各鍵盤にはそれぞれ9種類のストップが内蔵されています。各ストップ名はドローバー・ボタンの下にプリントされています。また、ペダル用に3種類のストップを内蔵し、ドローバー・ダウン・ボタンを2回押すと Fagot 16 のサウンドを Sub ストップに追加できます。

注意: パイプ・オルガン使用時は、スピーカー・モデル、サステイン・ペダル、ドライブ機能は使用できなくなります。

トレムラント

パイプ・オルガン使用時のビブラート / コーラス機能は、オリジナルのパイプ・オルガンと同様にトレムラント(震音装置)として機能します。トレムラントとは、パイプ・オルガンのパイプに送る空気量に変化を与えてビブラートのような効果を生み出す装置です。Nord C2 のトレムラントは上下鍵盤別々にかけることが可能です。また、トレムラントには2種類のスピード(V と C)それぞれに3種類のデプス(1~3)があります。

ヒント: (SHIFT) ボタンを押しながら操作すると、トレムラントのタイプが変わるサイクルを逆に選ぶことができます。

注意: ベース・ストップにはトレムラントがかかりません。

カブラー

パイプ・オルガン使用時は、ロータリー・シミュレーションとパーカッション・コントロールのパネルはパイプ・オルガンのカブラー・コントロールとして機能します。カブラーとは、上下どちらかの鍵盤にあるストップをもう一方の鍵盤で演奏できる機能です。この機能により、上下鍵盤それぞれにあるストップを組み合わせ使用し、非常に大規模なサウンドを作り上げることが可能になります。また、必要に応じてペダル・ストップも上下鍵盤のストップと組み合わせ使用することができます。

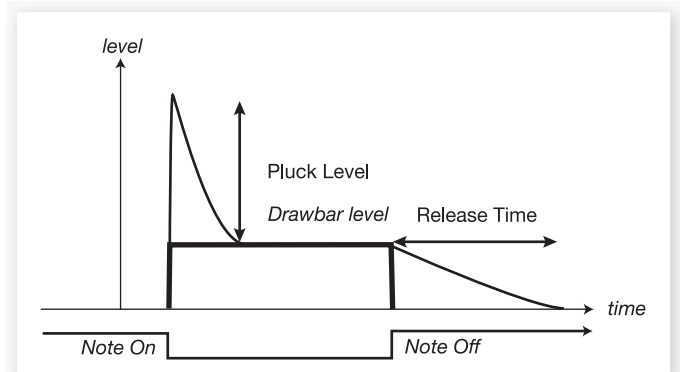
カブラー	内容
PED/GR LOW	下鍵盤の最低音から F3 までの範囲でベース・ストップの音が変わります。このカブラーはベース・ペダルを接続していない時に便利なものです。
SW 16/GR	上鍵盤のストップを下鍵盤で演奏できるカブラーです。この時、上鍵盤のストップは1オクターブ下がります。
SW/GR	上鍵盤のストップをトランスポーズさせずに下鍵盤で演奏できるカブラーです。
SWELL 16	上鍵盤のストップを1オクターブ下げた音を重ねて演奏できるカブラーです。
SWELL 4	上鍵盤のストップを1オクターブ上げた音を重ねて演奏できるカブラーです。
SW/PED	上鍵盤のストップをベース・ペダルで演奏できるカブラーです。
GR/PED	下鍵盤のストップをベース・ペダルで演奏できるカブラーです。

シンセ・ベース・モデル

シンセ・ベース・モデルはB3、VX、FARFの各モデルを選択している時に使用できます。B3モデル使用時は〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔ORGAN MODEL〕ボタンを押すことで通常のトーンホイール・ベースに代わってシンセ・ベース・モデルを使用できます。

シンセ・ベース・モデルは、モノフォニックのベース・シンセサイザーで、リリース・タイム(ベース・ペダルから足を離しても音が伸びた状態になるパラメーター)の調節が可能です。また、アタックをさらに強調できるブラックというパラメーターもあります。ブラックとリリース・タイムは〔SHIFT〕ボタンを押しながらベース・ドローバーを使って調節できます。

シンセ・ベース・モデルは、〔GREAT MAN〕ボタンを押すことで下鍵盤で演奏することもできます。詳しくは11ページをご参照ください。



プログラム・エリア



プログラムとは？

音色に関係するすべてのノブやボタンのセッティングはプログラムや Live 1、Live 2 のメモリー・エリアに保存できます。保存したセッティングはそれぞれのボタンを押すことで呼び出すことができます。

プログラムは126個までメモリーでき、選択したプログラム番号はディスプレイに表示されます。

重要：プログラムをエディットした場合、保存をせずに別のプログラムを選択すると、エディットした内容が消えてしまいますのでご注意ください。

Live1、Live2 にはそれぞれ音色に関係するすべてのパネル・セッティングをメモリーできます。エディットをすると自動的に保存され、別のプログラムを選択したり、Nord C2 の電源を切っても保存されたままになります。

プログラムをロードする

〔PROG〕 ボタンをオンにすると、〔PROG/MENU〕 ボタンでプログラムを選択することができます。プログラムを選択すると、プログラムに目メモリーされているデータが自動的にロードされます。

Live1 または 2 を使用している時に〔PROG/MENU〕 ボタンを押してもプログラムを選択することができますが、〔PROG〕 ボタンを押すまでそのデータはロードされません。

プログラムを保存する

プログラムの保存は、次の手順で行います：

- ① 〔STORE〕 ボタンを押します。すると、現在選ばれていたプログラム番号が点滅します。

注意：この時、ディスプレイに「PRO」と表示された場合は、メモリー・プロテクトがオンになっていますので、システム・メニューでメモリー・プロテクトをオフにします。詳しくは17ページの「システム機能」をご参照ください。

- ② 保存したいプログラム番号を〔UP/DOWN〕 ボタンを使って指定し、〔STORE〕 ボタンをもう一度押して保存を確定します。

この時、ディスプレイに「STO」と短時間表示されます。これで保存が完了します。

保存を中止したい場合は、2度目に〔STORE〕 ボタンを押す前に他のボタン(〔STORE〕 ボタン以外でしたらなんでもOKです)を押します。

注意：プログラム・セクションのボタンには、システム、MIDI、サウンドの各メニューに入るための機能も兼ね備えています。詳しくは17ページをご覧ください。

〔PROG/MENU〕 ボタン

ディスプレイの左側にある〔PROG/MENU〕 ボタンには複数の機能があります。通常は、Nord C2 の126個のプログラム選択に使用します。

システム、MIDI、サウンドの各メニューに入っている場合、〔PROG/MENU〕 ボタンでメニュー内の各機能を選択することができ、〔SHIFT〕 ボタンを押しながら〔PROG/MENU〕 ボタンを操作して、メニュー内の各機能の設定値を変更することができます。詳しくは17ページをお読みください。

ディスプレイ

LED ディスプレイは通常、プログラム番号を表示します。プログラムをエディットした場合は、番号の右下にドット「.」が表示されます。

システム、MIDI、サウンドの各メニューに入っている場合は、メニュー内の機能の設定値がディスプレイに表示されます。

ライブ

2つの〔LIVE〕 ボタンを押すと、通常のプログラムからライブ・プログラムに切り替わり、すべての音色エディットは自動的にその場でライブ・バッファに保存されます。ここで保存した内容は、電源を切ったり、別のプログラムを選択してもキープされますので、改めて電源を入れて〔LIVE〕 ボタンを押した時にも再び使用できます。

ライブ・バッファに保存した内容を通常のプログラムとして保存し直すことも可能です。手順は通常のプログラムの保存と同じです。また、通常のプログラムをライブ・メモリーに移すことも可能です。この場合は、ライブ・メモリーに入っていた内容と通常のプログラムが入れ替わる形になります。

エフェクト・エリア

スピーカー・モデル

ここではスピーカー / アンブ、そしてロータリー・シミュレーションを選択できます。

JC、TWIN はそれぞれ異なるアンブ、スピーカー・キャビネット・サウンドをシミュレートしたものです。オーバードライブの量はパネルの右上にある〔DRIVE AMOUNT〕で調節できます。



ROTARY はロータリー・スピーカーと内蔵アンブのサウンドをシミュレートしたものです。

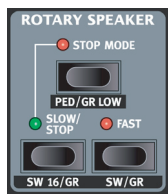
注意: パネル右上にある〔DRIVE〕ノブで、ロータリー・スピーカーのオーバードライブ量の調節を行えます。

注意: ロータリー・スピーカーのスピードはパネル左側のロータリー・スピード・コントロールで行います。

スピーカー・モデルの切替は、〔SPEAKER MODEL〕ボタンを繰り返し押しで行います。

ロータリー・スピーカー・コントロール

ロータリー・スピーカーのスピードは、パネル左側にあるロータリー・スピーカー・セクションでコントロールします。



また、本体リアパネルにあります〔ROTARY CONTROL INPUT〕にサスティン・ペダルやペダル・スイッチ、またはオプションのハーフ・ムーン・スイッチを使ってロータリー・スピーカーのスピードを切り替えることも可能です。

サスティン・ペダルを使ってコントロールする場合は、ペダルを踏んだ時だけスローまたはファストに変わる方式と、ペダルを踏む都度スピードが切り替わる方式の2種類を選べます。

詳しくは、18ページをご参照ください。

ディレイ

Nord C2にはテンポ (ディレイ・タイム)、フィードバックの調節が可能なディレイ・



エフェクトも内蔵されています。〔ON〕ボタンでエフェクトのオン / オフが可能です。

注意: エフェクトがオフの時でもディレイ・エフェクトの設定をすることができます。

〔TEMPO〕ノブでディレイ・タイムを調節します。〔TAP TEMPO〕ボタンを使ってディレイ・タイムを設定することも可能です。

〔AMOUNT〕ノブはエフェクト・センドと同様の働きをします。つまり、ディレイ・エフェクトに流れるドライ音 (原音) の量を調節します。

〔FEEDBACK〕ボタンはディレイのリピートの深さを設定します。LEDがすべて消灯している状態ではリピートが1回、すべて点灯している状態では非常に多くのリピートになります。設定は〔FEEDBACK〕ボタンを繰り返し押しで行います。

注意: (SHIFT) ボタンを押しながら〔FEEDBACK〕ボタンを押すと SWELL の LED が点灯し、上鍵盤のみにディレイ・エフェクトがかかる状態になります。

EQ

トレブル、ミッド、ベースの3バンド・イコライザーです。各バンドとも±15dBの変幅でブースト / カットを行えます。〔ON〕ボタンでエフェクトのオン / オフ切替ができます。

ドライブ

〔DRIVE〕ノブでアンブまたはロータリー・スピーカー・エフェクトのオーバードライブ量をコントロールすることができます。歪み具合は各アンブ・モデル / ロータリー・スピーカーで異なります。〔ON〕ボタンでドライブ全体のオン / オフ切替を行えます。

アンブまたはロータリー・スピーカーがオフの場合、このノブは単純なオーバードライブとして機能します。

リバーブ

リバーブは、様々な音響空間の自然な残響音をシミュレートするエフェクトです。〔ON〕ボタンでリバーブ全体のオン / オフ切替ができます。

〔AMOUNT〕ノブで原音とエフェクト音のバランスをコントロールします。

リバーブ・ボタンを押して5種類のリバーブ・タイプから1つを選択できます。ボタンの左側にある3つのLEDのうち、1つまたは2つが点灯して5種類のタイプを表示します。



- HALL SOFT: ホールの残響音をシミュレートしたものです。長い残響音とメロウなトーンが特徴的です。
- HALL: ややブライタなキャラクターのホールの残響音です。
- STAGE SOFT: 中程度の長さの残響音とハイを少し絞ったトーンのリバーブです。
- STAGE: 中程度の長さの残響で、ややブライタなキャラクターのリバーブです。
- ROOM: 小規模な空間の残響音をシミュレートしたもので、短い残響音が特徴です。

6 メニュー

システム、MIDI、サウンドの各メニューの設定は、変更直後に有効となり、自動的に保存されます*。各メニューへは〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔SYSTEM〕、〔MIDI〕、〔SOUND〕〔PROG〕、〔LIVE1〕、〔LIVE2〕の各ボタンを押して入ります。各メニュー内の機能へは〔UP/DOWN〕ボタンを押してアクセスでき、設定値の変更は〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔UP/DOWN〕ボタンを押して行います。通常のモードへ戻るには、〔PROG〕、〔LIVE1〕、〔LIVE2〕のいずれかのボタンを押します。

* 注意：唯一の例外として MIDI ローカル・オン/オフだけは Nord C2 の電源投入時に常にオンになります。

システム・メニュー

メモリー・プロテクト

この設定をオンにすると、プログラム・メモリーが保護され、プログラムの保存操作を行っても保存されません。プログラムを保存する場合にはこの設定をオフにします。なお、システム、MIDI、サウンドの各メニューの設定や、ライブ・メモリーはこの機能がオンの場合でも保護されません。

レンジ: On(デフォルト)、Off

アウトプット・ルーティング L/R

オルガン・モデルごとに外部のエフェクト・プロセッサーを使ったり、別々のアンプを複数台使ったシステムで演奏したい場合に、この機能を使用して Nord C2 のオルガン・モデルごとに異なるアウトプット(L または R) から出力させることができます。

レンジ: P:パイプ・オルガン

Pb:パイプ・オルガンとB3モデル

PE:パイプ・オルガンと VX モデル、FARFモデル

A:すべてのオルガン・モデル

重要:ハイ・レベル・アウトプットまたは11ピン・アウトプットを使用していない場合は、すべてのオルガン・モデルの音が L/R アウトプットから出ます。

アウトプット・ルーティング 外部ロータリー

ここでは、どのオルガン・モデルの音をハイ・レベル・アウトプットと11ピン・アウトプットに送るかを設定します。

レンジ: b3: B3モデル

E: VX と FARFモデル

bE: B3、VX、FARFモデル

重要:ハイ・レベル・アウトプットまたは11ピン・アウトプットを使用していない場合は、すべてのオルガン・モデルの音が L/R アウトプットから出ます。

トランスポーズ

Nord C2 のピッチを半音単位で移調したい時に使用します。

レンジ: ±6半音(デフォルト=0)

ファイン・チューン

Nord C2 のピッチを細かくチューニングする時に使用します。

レンジ: ±50セント(デフォルト=0)

サスティン・ペダル・ポラリティ

サスティン・ペダルの極性が Nord C2 に合わない時に、ここの設定を変更してサスティン・ペダルの極性を合わせます。

レンジ: OP: オープン、CL: クローズ(デフォルト)

サスティン・ペダル・コンフィギュレーション

選択したオルガン・モデルでサスティン・ペダル・メッセージに反応するかどうか(サスティン・ペダルを踏んだ時に音が伸びるようにするかどうか)をここで設定します。なお、ここでの設定とは無関係にサスティン・ペダルを踏むと Nord C2 の MIDI アウトからはサスティン・ペダル・メッセージが出力されます。

レンジ: On(デフォルト)、Off

注意:パイプ・オルガン・モデルではサスティン・ペダルは使用できません。

ローター・コントロール・タイプ

Nord C2 本体リアパネルにあります〔ROTARY CONTROL INPUT〕に接続したコントローラーの種類をここで設定します。

レンジ: HA: ハーフ・ムーン・スイッチ、OP: オープン、CL: クローズ(デフォルト)

スウェル・ペダル・タイプ

エクспレッション・ペダル・タイプのコントロール・ペダルは、ブランドごとにそれぞれ異なる特性があります(抵抗値やカーブなど)。Nord C2 側で接続するペダルの特性に合わせる作業を簡単にするために、主なブランドのペダル特性をプリセットにしました。

Roland、Yamaha、Fatar はみなりニアのコントロール・ペダルなのですがスケールリングとオフセット値がそれぞれ異なります。また、Ernie Ball (ErnieB) 製のペダルはボリューム・ペダルとしても使える仕様になっているために、カーブが対数カーブになっています。このように、それぞれ異なる特性がありますが、Nord C2 側で最適化して使用できます。なお、これらのペダルを Nord C2 に接続する場合は、Y字ケーブル(ステレオ・プラグから2つのモノ・プラグに分岐しているケーブル)が必要となる場合がありますのでご注意ください。

レンジ: FA: Fatar、Er: Ernie Ball、YA: Yamaha、rO: Roland(デフォルト)

ローター・ペダル・モード

ロータリー・スピーカーのスピード切替にサスティン・ペダルを使用する場合、スピードの切り替わり方をここで設定します。切り替わり方には「ホールド(Hold)」と「トグル(Toggle)」の2種類があります。「ホールド」は、ペダルを踏んでいる間だけファストまたはスローになり、ペダルから足を離すとスローまたはファストに切り替わるモードです(スローまたはファスト、どちらが初期状態になるかはペダルの極性によって変わります)。

「トグル」は、ペダルを踏む都度スローからファスト、またはファストからスローへ切り替わるモードです。サスティン・ペダルの代わりにフットスイッチなどを使用した時と同じ動作です。

レンジ: Hd: ホールド(デフォルト)、tO: トグル

オルガン・トリガー・モード

Nord C2 のキーボードによるオルガン・サウンドの発音方法をここで設定します。発音方法には「ファスト」と「ノーマル」の2種類があります。「ファスト」では、キーボードが下がり切る前にオルガン・サウンドが発音されます。これはピンテージのトーンホイール・オルガンの発音方法に非常に近いもので、よりリアルな演奏感をお楽しみいただけるモードです。

注意: パイプ・オルガン・モデルは、ここでの設定に影響を受けません。

レンジ: F: ファスト(デフォルト)、n: ノーマル

ドロバー・スピード

ここではドロバー・ボタンを長押しした時に自動的に増加 / 減少するスピードを設定します。

レンジ: F: ファスト(デフォルト)、S: スロー

MIDIメニュー

スウェル・チャンネル

Nord C2 の上鍵盤(上鍵盤のことを英語でスウェル・マニュアル(Swell Manual)と言います)の MIDI チャンネルを設定します。

レンジ: Off、1~16(デフォルト=1)

グレイト・チャンネル

Nord C2 の下鍵盤(下鍵盤のことを英語でグレイト・マニュアル(Great Manual)と言います)の MIDI チャンネルを設定します。

レンジ: Off、1~16(デフォルト=2)

ペダル・チャンネル

Nord C2 のベース・セクションの MIDI チャンネルを設定します。なお、下鍵盤がスプリットされてベース・セクションを演奏できる状態の場合は、下鍵盤のベース・セクション側の MIDI チャンネルは、ここで設定する MIDI チャンネルを送信します。

レンジ: Off、1~16(デフォルト=3)

ローカル・コントロール

Nord C2 のキーボードとフロント・パネルで本体のプログラムをコントロールするか、あるいは単純に MIDI ノート・メッセージとコントローラー・メッセージのみを送出するかをここで設定します。ローカル・オンは、いわゆる通常モードです。ローカル・オフの場合は、キーボードとフロント・パネルは MIDI メッセージのみを出力し、本体の音源は発音されません。

また、「E」モード時はキーボードでベロシティも送信されます。

レンジ: On(デフォルト)、Off、E: エクスターナル・デバイス

コントロール・チェンジ・モード

ここでは、フロント・パネルのノブやボタンと MIDI コントロール・チェンジ・メッセージとの関係(送受信する / 受信のみ / 送信のみ / 送受信しない)を設定します。

レンジ: Sr: 送受信する(デフォルト)、r: 受信のみ、S: 送信のみ、Off: 送受信しない

プログラム・チェンジ・モード

プログラム・チェンジ・メッセージの取り扱いをここで設定します。

レンジ: Sr: 送受信する(デフォルト)、r: 受信のみ、S: 送信のみ、Off: 送受信しない

センドCC

Nord C2 は、現在選択しているプログラムのすべてのパラメーター・データを MIDI コントロール・チェンジ・メッセージとして送信することが可能です。〔STORE〕ボタンを押すと送信が始まります。

ダンプ・ワン

現在選択しているプログラムのすべてのパラメーター・データを MIDI システム・エクスクルーシブとして送信する時に、このページを使用します。〔STORE〕ボタンを押すと送信が始まります。

ダンプ・オール

Nord C2 にメモリーされているすべてのプログラム・データを MIDI システム・エクスクルーシブとして送信する時に、このページを使用します。〔STORE〕ボタンを押すと送信が始まります。

詳しくは、21ページをご参照ください。

サウンド・メニュー

トレブル・ホーン・スピード

ロータリー・スピーカー・エフェクト(ファスト / スロー・モード時)のトレブル・ホーン(高音域用ホーン)の回転スピードを設定します。

レンジ: H: ハイ、n: ノーマル(デフォルト)、L: ロー

ベース・ローター・スピード

ロータリー・スピーカー・エフェクト(ファスト / スロー・モード時)のベース・ローター(低音域用ローター)の回転スピードを設定します。

レンジ: H: ハイ、n: ノーマル(デフォルト)、L: ロー

トレブル・ホーン・アクセラレーション

ロータリー・スピーカー・エフェクトのスピードを切り替えた時にトレブル・ホーンが加速 / 減速するスピードを設定します。

レンジ: H: ハイ、n: ノーマル(デフォルト)、L: ロー

ベース・ローター・アクセラレーション

ロータリー・スピーカー・エフェクトのスピードを切り替えた時にベース・ローターが加速 / 減速するスピードを設定します。

レンジ: H: ハイ、n: ノーマル(デフォルト)、L: ロー

パーカッション・ファスト・ディケイ

B3モデルのパーカッション・エフェクトのファスト・モード時のディケイ・タイムを設定します。

レンジ: L: ロング、n: ノーマル(デフォルト)、S: ショート

パーカッション・スロー・ディケイ

B3モデルのパーカッション・エフェクトのスロー・モード時のディケイ・タイムを設定します。

レンジ: L: ロング、n: ノーマル(デフォルト)、S: ショート

パーカッション・ノーマル・レベル

パーカッション・エフェクトのノーマル時のレベルを設定します。

レンジ: H: ハイ、n: ノーマル(デフォルト)、L: ロー

パーカッション・ソフト・レベル

パーカッション・エフェクトのソフト時のレベルを設定します。

レンジ: H: ハイ、n: ノーマル(デフォルト)、L: ロー

トーンホイール・モード

B3オルガン・モデルのトーンホイール・クロストークやケーブル・リーケージのレベルが異なるサウンド・キャラクターを設定します。

レンジ: u3: ピンテージ3、u2: ピンテージ2、u1: ピンテージ1(デフォルト)、Cl: クリーン

パーカッション・ドローバー9キャンセル

オリジナルのトーンホイール・オルガンでは、パーカッション・エフェクトを使用すると、ドローバー9がミュートされる設計でした。これと同様の仕様にするか、あるいはパーカッション・エフェクトを使用してもドローバー9が使用できるようにするかを、ここで設定します。

レンジ: C: キャンセル(ドローバー9をミュートする)、n: ノーマル(デフォルト: ドローバー9をミュートしない)

キー・クリック・レベル

B3オルガン・モデルのキー・クリックの音量を設定します。

レンジ: H: ハイ、n: ノーマル(デフォルト)、L: ロー

ロータリー・モデル

この機能は、将来予定しています Nord C2 のOSアップデート時に使用できる機能です。OSアップデート等の最新情報は、Clavia のウェブサイト www.nordkeyboards.com(英文)をチェックしてください。

パイプ・ペダル・レベル

パイプ・オルガンのペダル鍵盤の音量レベルを設定します。

レンジ: H: ハイ、n: ノーマル(デフォルト)、L: ロー

パイプ・スウェル・レベル

パイプ・オルガンの上鍵盤の音量レベルを設定します。

レンジ: H: ハイ、n: ノーマル(デフォルト)、L: ロー

7 MIDI機能

MIDI機能について

Nord C2 では、次の MIDI メッセージの送受信が可能です：

ノート・オン/オフ

- ・ ノート・オン / オフ・メッセージの送受信

コントローラー

MIDI メニュー(18ページをご参照ください)の設定により、MIDI コントロール・チェンジ・メッセージの送受信を行います。

- ・ MIDI コントローラー7を受信して Nord C2 全体の音量をコントロールできます。
- ・ MIDI コントローラー10を受信して Nord C2 のパンニングをコントロールできます。
- ・ Nord C2 のリアパネル (SWELL PEDAL INPUT) にコントロール・ペダルを接続して、MIDI コントローラー4(スウェル)を送信できます。
- ・ (SUSTAIN PEDAL INPUT) にサスティン・ペダルを接続して、MIDI コントローラー64(サスティン・ペダル)を送信できます。
- ・ (ROTOR PEDAL INPUT) にペダルを接続して、MIDI コントローラー90を送信できます。
- ・ その他、フロント・パネルのほとんどのノブやボタンも MIDI コントロール・チェンジ・メッセージの送信(そして受信)が行えます。このことにより、ノブやボタンの操作を MIDI シーケンサーに記録することができます。各パラメーターと MIDI コントローラー番号を次のページで表にまとめましたのでご参照ください。

キーボード・ベロシティ

Nord C2 はキーボード・ベロシティの送受信を行えますが、オルガン・サウンドは入力される MIDI ベロシティ・データとは無関係に一定のレベルを出力します。また、リリース・ベロシティの送信も可能です。

プログラム・チェンジ

Nord C2 では、MIDI メニュー(17ページをご覧ください)でプログラム・チェンジ・メッセージの送受信設定を行います。

プログラムを選択した時、プログラム・チェンジ・メッセージを送信します。Nord C2 で設定した MIDI チャンネルでプログラム・チェンジ・メッセージを受信すると、Nord C2 のプログラムがそのメッセージに従って変わります。

Nord C2 の128個のプログラム(プログラム1~126+Live1+ Live2)は MIDI プログラム・チェンジ・メッセージの0~127に対応しています。

MIDIシステム・エクスクルーシブ

プログラムのデータを1プログラムずつ、あるいは全プログラムを一気にシステム・エクスクルーシブ・ダンプで送受信することができます。

Nord C2とシーケンサーを使う

接続する

- ① Nord C2 の MIDI アウトとシーケンサーの MIDI インを接続します。
- ② シーケンサーの MIDI アウトと Nord C2 の MIDI インを接続します。

ローカル・オン/オフ

シーケンサーがNord C2からのMIDIメッセージをそのまま送り返す仕様(これをエコー・バックと言います)の場合、Nord C2 をローカル・オフにする必要があります。これは、Nord C2 から送信された MIDI メッセージがシーケンサーを経由して再び Nord C2 に戻り、MIDI メッセージがダブってしまうことを防ぐためです。ローカル・オン / オフの設定方法につきましては、17ページの「MIDI メニュー」をご覧ください。

MIDIチャンネル

Nord C2 の MIDI チャンネルは MIDI メニューで設定します。詳しくは17ページの「MIDI メニュー」をお読みください。

プログラム・チェンジ

プログラム・チェンジのデータ、シーケンサーのトラックのトラック・セッティングで選択することが一般的です。Nord C2 の128個のプログラムはプログラム・チェンジ0~127に対応しています。

プログラム・チェンジをシーケンサーのトラックに記録する場合は、Nord C2 でプログラムを選択すればそのまま記録されます。

コントロール・チェンジ

Nord C2 のノブやボタンの動きをシーケンサーに記録する場合は、シーケンサーから「エコー・バック」されるデータの MIDI チャンネルが正しく設定されていることをご確認ください。そうでないと、思いもよらぬ変化が起こることがあります。

曲中のコントロール・チェンジの記録について

例えば曲の中間部で Nord C2 のドローバーをすべて引き出したとします。ドローバーをすべて引き出す操作も含めてシーケンサーに記録し、シーケンサーでそれ以前の曲の位置を呼び出したとします。つまり時間的にはドローバーがすべて引き出される前の位置になります。ここで1つの問題が起きます。それはシーケンサーのポジションはドローバーが引き出される前の位置にあるのにも関わらず、Nord C2 のドローバーはすでに引き出されてしまっているのです。

このような問題を回避するために、Nord C2 のプログラムの状態をシーケンサーの曲の先頭に記録しておくことをお勧めします。詳しくは次のページの「MIDI コントローラー・ダンプを送信する」をご参照ください。

プログラムとCCダンプ

プログラムのデータをシステム・エクスクルーシブ・ダンプで、あるいはコントローラー・データを MIDI でもう1台の Nord C2 やシーケンサーなどの MIDI 機器へ送信する場合、次の要領で行います：

プログラム・ダンプを送信する

- ① Nord C2 の MIDI アウトを受信する MIDI 機器等の MIDI インに接続します。
- ② 受信側の MIDI 機器を操作して MIDI システム・エクスクルーシブ、MIDI コントローラー・データを受信できる状態にします。
- ③ Nord C2 の〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔MIDI〕ボタンを押して MIDI メニューに入り、〔UP/DOWN〕ボタンを使って「Dump One」または「Dump All」のページを呼び出します。
- ④ 必要に応じて受信側の MIDI 機器をレコーディング・モードにします。
- ⑤ Nord C2 の〔STORE〕ボタンを押します。すると Nord C2 からデータが送信され、ディスプレイが点滅を始めます。データの送信が終わると、ディスプレイの点滅が止まります。

MIDI コントローラー・ダンプを送信する

- ① 上記「プログラム・ダンプを送信する」のステップ1と2を行います。
- ② 〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔MIDI〕ボタンを押して MIDI メニューに入り、〔UP/DOWN〕ボタンを使って「Send CC」のページを呼び出します。
- ③ 〔STORE〕ボタンを押してデータを送信します。データの送信中はディスプレイが点滅し、送信が終わると点滅が止まります。

この手順は、データ送信時点の Nord C2 のフロント・パネルの状態を送信するものです。

MIDI システム・エクスクルーシブ・ダンプを受信する

MIDI システム・エクスクルーシブ・ダンプの受信は、次の手順で行います：

- ① 送信側の MIDI 機器の MIDI アウトを Nord C2 の MIDI インに接続します。
- ② 送信側の MIDI 機器でデータを送信する操作をします。

送信するデータがすべてのプログラム・データの場合、Nord C2 にそれまでメモリーされていたプログラム・データはすべて消去され、受信したプログラム・データに入れ替わります。1プログラムだけのデータを受信した場合は、そのデータはすぐにプログラムにメモリーされず、テンポラリー・エリアに入ります。この時、ディスプレイの右下にドット「。」が表示されます。受信したデータをプログラムとして保存する場合は、通常のプログラムを保存する手順を行います(15ページの「プログラムを保存する」をご参照ください)。

MIDI コントローラー・リスト

以下の表は Nord C2 のパラメーターに対応する MIDI コントローラー・ナンバーをまとめたものです。上下鍵盤、ベース・ペダルで別々に(それぞれの MIDI チャンネルで)送受信できるパラメーターにはアスタリスク(*)がついています。

Nord C2 パラメーター	MIDI コントローラー・ナンバー
Organ Model Selector	9
Synth Bass On/Off	110
Speaker Sel	81
Delay Tempo	77
Delay Feedback	78
Delay Swell Only	75
Delay Amount	76
Delay On/Off	80
EQ Treble	113
EQ Mid	116
EQ Bass	114
EQ On/Off	115
Drive Amount	111
Drive On/Off	112
Reverb Amount	102
Reverb Selection	96
Reverb On/Off	97
Vib/Chorus/Trem Mode	84
Vib On/Off (SW/GR) *	85
Pedbar/Perc Presets *	3
Ped Great Man	117
Rotary Speaker Control	82 (0 = Slow, 64 = Stop, 127 = Fast)
Ped/GR Low coupler	103
SW 16/GR - SW/GR	104
Drawbars -	上下鍵盤、ベース・ペダル別々に MIDI チャンネルを設定可能
Drawbar 1 *	16
Drawbar 2 *	17
Drawbar 3 *	18
Drawbar 4 *	19
Drawbar 5 *	20
Drawbar 6 *	21
Drawbar 7 *	22
Drawbar 8 *	23
Drawbar 9 *	24
Perc On/Off	87
Perc Soft	28
Perc Fast	27
Perc Third	95
Swell 16 & 4 coupler	105
Swell/Ped & Gr/Ped coupler	106
Sustain Pedal	64
Swell Pedal	4
Rotary Control	82 (パネルに同じ)

MIDIインプリメンテーション・チャート

機能	送信	受信	備考
ベーシック・チャンネル	1-16	1-16	
デフォルト・チャンネル	1-16	1-16	
モード	デフォルト メッセージ その他	モード3 ×	モード3 ×
ノート・ナンバー	トウラー・ボイス	0-127	0-127
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○、v = 1-127 ○、v = 1-127	○、v = 1-127 ○、v = 1-127
アフタータッチ	キー チャンネル	× ×	× ×
ピッチ・ベンダー		×	×
コントロール・チェンジ		○	○
プログラム・チェンジ トウラー・ナンバー		○、0-127	○、0-127
システム・エクスクルーシブ		○	○
システム・コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×
システム・リアルタイム	クロック コマンド	× ×	× ×
その他のメッセージ	ローカル・オン / オフ オール・ノート・オフ アクティブ・センス リセット	× × × ×	× × × ×
ナンバー	トウラー・ボイス		

Mode 1: Omni On, Poly - Mode 2: Omni O, Mono - Mode 3: Omni Off, Poly - Mode 4: Omni Off, Mono - O = Yes - X = No

Model: Nord C2 OS v1.x Date: 2009-05-25

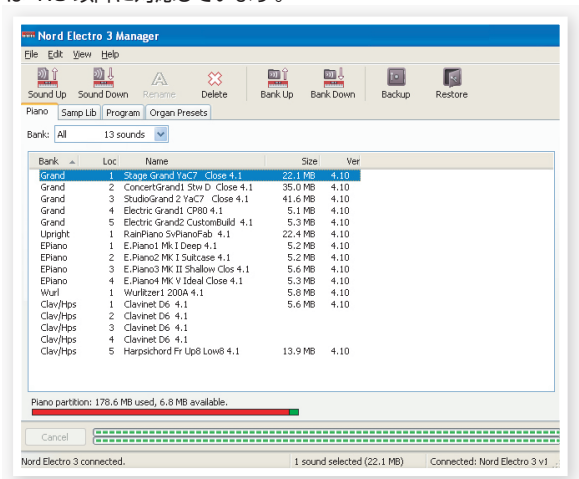
8 付録

Nord Sound Manager

Nord Sound Manager は、Nord C2 のメモリー・エリアを管理するアプリケーションです。コンピューターから Nord C2 ヘブプログラム・データを転送(ダウンロード)したり、逆に Nord C2 からコンピューターヘブプログラム・データ(これを「サウンド」と呼びます)を転送(アップロード)することができます。Nord Sound Manager は、様々な方法でサウンドを Nord C2 ヘダウンロードしたり、Nord C2 のメモリーのバックアップをコンピューターに保存したり、コンピューターに保存したバックアップファイルを Nord C2 へ戻したりすること(レストア)が行えます。

動作環境

Nord Sound Manager は Mac OSX 10.4 以降、Windows XP、Windows Vista に対応しています。なお、Windows コンピューターで Nord Sound Manager をご使用になる場合は、別途 Clavia USB Driver v2.14 以降をインストールする必要があります。また、Nord C2 の OS は 1.0 以降に対応しています。



アップデート

Clavia のウェブサイト www.nordkeyboards.com へどうぞアクセスしてください(英文)。Nord C2 の OS アップデートや最新情報などをいち早くキャッチできます。Nord C2 の OS アップデートなどは、Nord C2 ダウンロード・エリアからダウンロードできます。

また、Nord Sound Manager、USB Driver のインストール方法などの解説ファイルも Clavia ウェブサイトからダウンロードできます。

9 索引

英数

B3モデル 12
EQ 16
FARFモデル 13
LED 15
MIDI 18
MIDIコントローラーリスト 21
MIDIイン 6
MIDIメニュー 18
MIDIアウト 6
PROG/MENU 15
USB接続 6
VXモデル 13

ア行

アウトプットルーティング 17
インプリメンテーション・チャート(MIDI) 22
エディット 8
エフェクト・エリア 16
エフェクト 9、16
オーディオの接続 6
オルガン・エリア 11
オルガン・セクション 15
オルガントリガー 18
オルガントリガー・モード 18
オルガン・モデル 9
オン/オフ・ボタン 5

カ行

外部ロータリースピーカー 17
カバー 14
キークリック・レベル 19
グレート・マニュアル(下鍵盤) 18
コントロール・チェンジ 18
コントロール・チェンジ・モード 18

サ行

サウンド・メニュー 18
サスティン・ペダル 6、17
サスティン・ペダル・コンフィギュレーション 17
サスティン・ペダル・ポラリティ 17
システム・メニュー 17
シフト 11
シフト・ボタン 5、11
シンセ・ベース 14
スウェル・チャンネル 18
スウェル・ペダル 6
スウェル・ペダル・タイプ 17
ステージ(リバーブ) 16
ステージ・ソフト(リバーブ) 16

ストップ 14
スピーカー/コンプ 16
スピーカー・モデル 16
セレクター・ボタン 5
センドCC 18

タ行

ダンプ・オール 18
ダンプ・ワン 18
ディレイ 16
テンポ・ノブ(ディレイ) 16
トーンホイール・クロストーク 19
トーンホイール・モード 19
ドライブ 16
トランスポーズ 17
トレブル 16
トレブル・ホーン 18
トレブル・ホーン・アクセラレーション 18
トレブル・ホーン・スピード 18
トレムラント 14
ドローバー/パーカッション・プリセット・ボタン 11
ドローバー 11
ドローバー・スピード 18

ハ行

パーカッション 12
パーカッション・スロー・ディケイ 19
パーカッション・ソフト・レベル 19
パーカッション・ドローバー9キャンセル 19
パーカッション・ノーマル・レベル 19
パーカッション・ファスト・ディケイ 19
パイプ・オルガン 14
ビブラート(B3) 12
ビブラート(FARF) 14
ビブラート(VX) 13
ファイン・チューン 17
フィードバック 16
プリビュー 11
プログラム 8、15
プログラム・チェンジ 18
プログラム・チェンジ・モード 18
プログラム・メモリー 8
ベース 16
ベース・ペダル 7
ベース・ローター 18
ベース・ローター・アクセラレーション 19
ベース・ローター・スピード 18
ペダル・チャンネル 18
ヘッドフォン 7
ホール(リバーブ) 16
ホール・ソフト(リバーブ) 16

保存 8、15
保存する 8

マ行

マスター・レベル 5、11
ミッド 16
メモリー・プロテクト 8、17
モニター・イン 7

ラ行

ライト・アウトプット 7
ライブ 9
リバーブ 16
ルーム(リバーブ) 16
レフト・アウトプット 7
ローカル 18
ローカル・コントロール 18
ロータリー 16
ロータリー・コントロール 6
ローター・コントロール・タイプ 17
ロータリー・スピーカー 7、16
ローター・ペダル 17
ローター・ペダル・モード 18

10 Nord C2仕様

一般

- マスター・レベル・コントロール
- 126個のプログラム
- 2個のライブ・バッファ

オルガン・セクション

- トーンホイール・オルガン、Vox Continental、Farfisaモデル、完全ポリフォニック
- パイプ・オルガン:バロック・スタイル(21ストップ、同時発音数は使用するストップ数によって変化します)
- ベース・モデル(トーンホイール、シンセ・ベース、パイプ・オルガン)
- 20個のデジタル・コントロール式ドローパー
- 1つのプログラムにつき6個のドローパー・プリセット
- パーカッション・コントロール
- ビブラート/コーラス/トレムラント・コントロール

パイプ・オルガン・ストップ、カブラー

スウェル(上鍵盤)

- Fugara 8
- Rohrflöte 8
- Principal 4
- Spitzflöte 4
- Nasat 3
- Flöte 2
- Vox Celeste
- Scharf II-III
- Oboe 8

グレイト(下鍵盤)

- Principal 8
- Gamba 8
- Gedackt 8
- Octava 4
- Rohrflöte 4
- Qvinta 3
- Octava 2
- Mixtur III-IV
- Trumpet 8

ペダル

- Subbas 16
- Fagot 16
- Gedackt 8

カブラー

- PED/GR. Low
- SW 16/GR
- SW/GR
- Swell 16
- Swell 4
- SW/PED
- GR/PED

エフェクト・セクション

- 3バンド・イコライザー
- オーバードライブ
- 3種のスピーカー・シミュレーション(ロータリー・スピーカーを含む)
- デレイ(フィードバック、タップ・テンポ機能付き)
- リバーブ(5アルゴリズム)

キーボード

- 61鍵ウォーターフォール型キーボード×2段

接続端子

- ステレオ・ヘッドフォン・アウトプット:標準ステレオ・ジャック
- ライン・レベル・オーディオ・アウトプット(L/R):標準ジャック
- ハイ・レベル・アウトプット:11ピンLeslie™スタンダード・コネクター、標準ジャック
- モニター・インプット:ステレオ・ミニ・ジャック
- サステイン・ペダル・インプット:標準ジャック(モーメンタリー・タイプのペダルをご使用ください)
- ローター・コントロール・インプット:標準ジャック(モーメンタリー・タイプのペダル、または別売オプションのハーフ・ムーン・スイッチをご使用ください)
- スウェル・ペダル・インプット:標準ステレオ・ジャック(TRS)(コントロール/エクスプレッション・ペダルをご使用ください)
- MIDIイン:5ピンDINコネクター
- MIDIアウト:5ピンDINコネクター
- ベース・ペダルMIDIイン:5ピンDINコネクター
- USB:タイプBコネクター
- 電源コネクター

外形寸法

- 966 mm (W) x 445 mm (D) x 163 mm (H)

重量

- 15.5 kg

Ernie Ball, Farfisa, Fatar, Leslie, RolandおよびYamahaは、各社または各所有者の商標であり、Claviaとの関係は一切ありません。また、これらの商標、および本マニュアルに記載の商標は、本機のサウンドや仕様を説明するためにのみ使用しています。

